

大会名 Competition	第37回 能代カップ 高校選抜バスケットボール大会
NO. M-102	Year Month Day Time 2024 年 5 月 3 日 10 : 45
場所 Place	能代市総合体育館

発行：能代市バスケットボール協会
http://ncup.snowland.net



チームA		チームB
日本航空	75 ○	開志国際
	12 1st 20 21 2nd 16 19 3rd 13 23 4th 25 0 T	74 ●

主審:Crew chief
水木 順仁 秋田
副審:Umpire
田村 高光 秋田
堀内 大 宮城
テーブルオフィシャル:Table officials
秋田県TO委員会

No.	PI-in	選手氏名	Name of Players	PTS	3P	2P	FT	F	No.	PI-in	選手氏名	Name of Players	PTS	3P	2P	FT	F
0		西田 壮良		-	-	-	-	0	4	×	清水 脩真	cap	11	1	4	0	1
8		菅野 幸世		-	-	-	-	0	5	×	平良 宗龍		9	1	2	2	2
11		宮野 大知		-	-	-	-	0	6	×	千保 銀河		22	6	2	0	1
12		萩原 迅		-	-	-	-	0	7		矢作 悠吏		-	-	-	-	0
9	/	井ノ岡 源聖		6	2	0	0	3	8	/	高野 拓泉		6	0	3	0	0
22		望月 陽生		-	-	-	-	0	9		前田 ハナリー有聖		-	-	-	-	0
23	×	オクハベ ルミ・ジエラマイ		18	2	5	2	0	10	/	池田 楓真		0	0	0	0	0
25		鈴木 漣		-	-	-	-	0	11	/	小泉 俊介		0	0	0	0	0
30	×	大道 一步	cap	22	2	8	0	0	12		中塚 遼人		-	-	-	-	0
34	×	久保田 楓羽		0	0	0	0	1	13	×	高橋 歩路		4	0	2	0	0
58	/	中西 哲太		10	2	2	0	1	14	×	社ノフィ ケルビン シェミリー		22	2	7	2	3
77	×	高橋 蓮夢		6	0	3	0	1	15		サニ アルセグン ファルク		-	-	-	-	0
31		本郷 匠ノ秦		-	-	-	-	0	16	/	平良 奏龍		0	0	0	0	0
88	/	ジャキチザ カリア モリハ		0	0	0	0	1	17		ホーキンス 然		-	-	-	-	0
99	×	三村テール アンソニー		13	0	5	3	1	18		磯部 大悟		-	-	-	-	0
コーチ		山本 裕						0	コーチ		富樫 英樹						0
アコーチ		鷺山 翔哉						0	アコーチ		津野 祐樹						0
合計				75	8	23	5	8	合計				74	10	20	4	7

※×:スター /:交代選手 PTS:ポイント 3P:3Pポイントシュート 2P:2Pポイントシュート FT:フリースロー F:ファウル

Score ranking [Team]

1	22	29.33%	大道 一步
2	18	24.00%	オクハベ ルミ・ジエラマイ
3	13	17.33%	三村テール アンソニー

1	22	29.73%	千保 銀河
2	22	29.73%	社ノフィ ケルビン シェミリー
3	11	14.86%	清水 脩真

Score ranking [Game]

1	22	大道 一步	日本航空	2	22	千保 銀河	開志国際	3	22	社ノフィ ケルビン シェミリー	開志国際
---	----	-------	------	---	----	-------	------	---	----	-----------------	------

互いに全国優勝経験を持つ屈指の強豪校同士の好カード。
1Q、日本航空、開志国際ともにハーフマンツーマンで開始する。タイトなディフェンスからドライブを中心に早い展開に持ち込む開志国際に対し、高さで勝る日本航空はアウトサイドシュート主体で攻め、序盤は互角の展開。残り5分、開志国際は#14シェミリーの豪快なダンクショットや3Pで一気に突き放すと、その後も日本航空の攻撃を単発に抑え、12-20。
2Q、追いつきたい日本航空はインサイドを固めて守る。開志国際は仕方なく3Pを放つもの決めきることができない。ディフェンスのリズムをつかんだ日本航空は#23ジェラマイアの連続3Pで同点に追いつくと、そこからは互いにサイドチェンジが続く。33-36で前半終了。
3Q、前半同様1ポゼッション内の互角の攻防が続く。両チームともタイトなディフェンスに攻め手を欠く展開が続く。残り5分、39-44となったところで日本航空はタイムアウト。#30大道のドライブを中心にオフェンスを組み立てると流れは日本航空へ。残り1分、#9井ノ岡の3Pで逆転し52-49で最終Qへ。
4Q、早く追いつきたい開志国際と突き放したい日本航空。開志国際は#5平良、#6千保の連続3Pなどで同点にまでは追いつくものの、日本航空は逆転を許さない。日本航空#30大道、開志国際#4清水の巧みなゲームメイクで一進一退の激しい鏖戦が続き。残り24秒、73-72、日本航空リードの場面で開志国際はタイムアウトを取り、最後のゲームデザインを確認。残り2.3秒、リング下からのパスを受けた#13高橋のシュートがリングに吸い込まれ、ついに開志国際が73-74と逆転に成功、誰もが開志国際の勝利を確信した。しかしここでドラマは終わらない。残り0.5秒、歓喜に沸く会場を背に静かにタイムアウトを取った日本航空は、スローインのアリウープパスに#23ジェラマイアがゴールにダイブ。NBA顔負けのアリウープダンクパービーターで75-74、劇的な逆転で勝利し、大観衆を大いに沸かせた。
出場した選手はもちろん、見事なゲームデザインで最高の試合を演出した両コーチに敬意を表したい。

文責 【 山本 太志 】